

系統豚「ローズW-2」の系統間交雑利用試験（第1報）

楠原徹，海老沢重雄，須永静二¹，相馬由和

Studies on the performance of three-way crossed hybrid pigs
with Pig Strain[ROSE W-2]

Tooru KUSUHARA, Shigeo EBISAWA, Seiji SUNAGA, Yoshikazu SOMA

要 約

系統豚として認定された大ヨークシャー種系統豚「ローズW-2」の有効利用を図るため、「ローズW-2」にランドレース種の雄豚を交配し、さらに、デュロック種の雄豚を交配して組合せ検定を行う。

平成17年度は、「ローズW-2」にランドレース種3系統を交配し、一代雑種(WL)を生産した。

キーワード ローズW-2，系統豚，組合せ

緒 言

優良な肉豚を生産するには、能力が高くかつ遺伝的に斉一性の高い集団を造成(系統造成)し、系統間交雑を計画的に行うことが重要である。本県では、昭和45年からランドレース種の造成をはじめ、昭和54年に「ローズ」がわが国第1号の系統豚として認定された。その後、昭和62年に大ヨークシャー種系統豚「ローズW-1」¹⁾、平成6年にランドレース種系統豚「ローズL-2」¹⁾、さらに、平成15年に大ヨークシャー種系統豚「ローズW-2」が造成された²⁾。

「ローズW-2」の優れた雌豚の資質を活かすため、「ローズW-2」の雌と各県等が造成したランドレース種およびデュロック種の三元雑種(WL・D)の産肉能力を調査し、最良の組合せを知り、肉豚ならびに枝肉の斉一性と上物率を向上させ、高品質な豚肉の安定供給を図る。

材料および方法

1 供試する系統豚

供試する系統豚は近県および広域利用可能であると思われるものとする。

- 1) 大ヨークシャー種系統豚：
「ローズW-2」(茨城県)

- 2) ランドレース種系統豚：
「ローズL-2」(茨城県)
「ユメカナエル」(神奈川県)
「フクシマ L2」(福島県)
- 3) デュロック種系統豚：
「サクラ201」(茨城牧場)
「ユメサクラ」(宮崎牧場)
「ゼンノーD-01」(全農)
「フジロック」(静岡県)
「しもふりレッド」(宮城県)

2 年次別試験内容

1) 1年次

一代雑種(WL)の生産および育成豚の選抜。

「ローズW-2」雌豚9頭を用いて、ランドレース種3系統を交配し、ランドレース種1系統につき6頭、合計18頭の育成雌豚を選抜する。

2) 2～3年次

三元雑種(WL・D)の生産および調査豚の選定。

1年次で選抜したWL(♀)18頭(初産および2産)を用いてデュロック種5系統を交配(各系統6頭)し、各腹雌2頭、去勢2頭(合計120頭)の調査豚を選定する。

(1) 調査豚の肥育

調査豚は105kgまで肥育し、各腹雌1頭、去勢1頭を所内でと畜解体し、枝肉各部の測定および食味を検査する。残りの雌1頭、去勢1頭は茨城中央食肉公社に出荷し、市

1 現 茨城県南家畜保健衛生所

場性を調査する。

(2) 調査項目

- ① 産子数, 離乳時育成率, 子豚の発育
- ② 育成豚(WL♀): 30kg~105kgまでの
1日平均増体重(DG)と飼料要求率(FC),
105kg時の背脂肪層の厚さ(BF)とロース断面
積(EM), 各部の体尺値
- ③ 調査豚(WL・D♀, 去勢): 30kg~105kg
までのDGとFC, 105kg時のBFとEM, と畜
後の枝肉各部の測定および審査, 肉質検
査(保水性, 脂肪の融点, 脂肪酸組成等),
食味検査, 上物率, 格落理由等。

結果および考察

大ヨークシャー種「ローズW-2」に, 3系統のランドレース種: 「ローズL-2」(茨城県), 「ユメカナエル」(神奈川県), 「フクシマL2」(福島県)を交配させた。

W種「ローズW-2」×L種「フクシマL2」は1腹分娩(♀; 8頭, ♂; 1頭)。

W種「ローズW-2」×L種「ローズL-2」は3腹分娩(♀; 17頭, ♂; 13頭)。

W種「ローズW-2」×L種「ユメカナエル」は2腹分娩(♀; 15頭, ♂; 12頭)し, 2腹分娩予定。

本年度, 一代雑種(WL)を生産するにあたり受胎率が良くなかったため, 一代雑種の出生時期および系統毎における母豚数をそろえることが出来なかったが, 各系統毎のWL雌豚は6頭ずつ産出された。

参考文献

- 1) 加藤由紀乃(1994), ランドレース種系統豚ローズL-2造成試験, 茨城豚試研報, 9: 27-48
- 2) 前田育子(2003), 大ヨークシャー種系統造成試験, 茨城畜セ研報, 35: 183-191